

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200517		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム白鳥の里		
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320.aspx
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111
訪問調査日	平成22年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関、老人保健施設、デイケアセンター等の併設施設が充実している為、協力体制が整っている。他部署交流も可能である。緊急時には、迅速な対応ができるように、24時間体制で看護師とも連絡が取り合うことも可能である。AEDや吸引器等の物品も整備されており、安心感を得ている。介護職員は、小さな変化も見逃さないように、五感を使い「気づき」を持つように勉強会やロールプレイング研修を充実させている。知識と実践が伴うように、今後力を入れていく。
地域に開かれたグループホームを目指し、地域交流に取り組んでいる。地区特有の伝統行事や公民館活動にも参加させて頂いている。畑作業を通しての役割作りにも力を入れている。地域住民から苗の差し入れや、職員のいない所で、地域住民と入居者が会話される場面も見られ始めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する病院、老人保健施設、デイケアセンター等の併設施設がある平屋建てのグループホームである。特に医療面では緊急時も含め迅速な対応ができる体制になっている事が家族の安心感を得ている。法人内の研修会やホーム内での定期的な研修も活発である。ケア面でも職員は入居者のあるがままを受け入れるため、五感を使い気づきができるように頻りに話し合いがもたれている。また、「その人らしい暮らし方」ができることを目標に、昨年の評価結果をもとに目標達成計画を立て取り組んでいる。地域との「出かける、来てもらう」関係が深まり、公民館の行事への参加、近くの神社の夏祭りや伝統行事のお大師参り等、また、地域のボランティアの援助での絵手紙教室や近隣の住民と農園で一緒に畑作業をする等、日々交流を行っている。中学校の職場体験学習や保育園との交流も積極的に行き、開かれたグループホームとしての取り組みが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。ホーム便りにより状の報告・発信し、町内の方にボランティアにおいて頂いている。少しずつではあるが、グループホームに関心を持って頂いている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、職員はネームプレートに入れて携帯し、又、施設内に数箇所掲示して意識付けがはかられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	彦名公民館の行事や神社の祭り等への参加、地区の小学生とも交流を図っている。また、畑作業をする中で、利用者と地域住民が会話を楽しむ姿も見られ始めている。限られた入居者にもなりがちな為、今後の課題である。	地域の公民館の催しや祭りに参加、又事業所の催しに地域住民が参加、地元の小学生保育園児の来訪、ボランティアの受け入れなど相互の交流が見られている。畑作り、近隣の散歩などを通して地域住民との日常的な交流も見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを地域に配布し、ホームの様子をお知らせしている。時に、認知症についての記事を掲載する事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、取り組み状況やご本人やご家族から頂いた意見やヒヤリハットを報告している。忌憚のない意見を頂き、気づきを得る事が出来ている。	会議は2ヶ月に1回開催されており、入居者、家族代表、公民館長、自治会長、民生委員、駐在所巡査、地域包括支援センター職員などで構成され、サービス状況の報告、意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加の呼びかけを毎回するようにした。市町村との連携は不足している。今後、具体的にどのような面での連携が必要なのか、市町村に明確に提示できるようにしたい。	地域包括支援センターが窓口になり情報交換が行われているが、事業所の実情やサービスの取り組みについても意見交換・協力関係を築けるように、市役所職員の出席要請や連携についても粘り強く行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時やむを得えず、行った場合はご家族の理解や協力を求めている。研修会等で、より深く拘束について理解し、排除に向けて取り組んでいる。日中の出入りは自由にして鍵を掛けないケアをしている。	拘束排除について研修などで理解を深め、取り組んでいる。玄関の鍵は日中かけていないが、家族の希望でベットの4点柵をすることがあり、話し合いをして排除に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。院内研修等を通して、虐待について学ぶ機会がある。入居者への接し方を日頃から気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は、活用していないのが現状である。必要時には、活用できるように知識を得ておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、極力ご本人にも同席して頂き、ご家族と共に不安や疑問点はないか尋ねている。運営規程や重要事項説明は十分に時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では、ご家族同士が自由に語る時間を設け、忌憚のない意見を頂き運営に反映している。今後、より一層オープンに出来るような対応が必要である。意見箱を設置し、いつでも意見を言うて頂ける仕組みを作っている。	年1回開かれる家族会や行事に出席された折に家族同士が自由に話し合える時間を設け、推進会議への出席をお願いして意見を聞くようにしている。目標達成計画に「家族から忌憚のない意見をもらえるような環境雰囲気作り」を目標にあげ取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスを開き職員が言える場を設けている。出席できない職員も、事前に意見提案できる仕組みを作っている。	月1回はカンファレンスが開かれ、職員には事前に意見を記入する用紙が配布され、出席できない職員も提案や要望ができる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と話し合う機会が少ないが、現場に出向かれた際は、業務の悩み相談に乗ってもらっている。また、今年度より法人内で現場の声を聞く機会として部門会が開催されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人(介護部)より、院内外の研修案内があり、その都度、スキルアップを図る為、研修に参加している。研修参加後は、他職員にも伝達講習を行い、情報共有をしている。また、GH内研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互研修やその他の研修会でも情報交換等を行い、サービスの質向上を目指している。また、他のグループホームの運営推進会議にも参加させて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人、ご家族とも不安が大きい事を受け止めている。必要時には何度も話し合う場を設けたり、自宅等への訪問をし、少しでも安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、時間を設け、今後馴染みの関係が築けるように工夫している。ご家族の不安や困っている事を遠慮なく言ってもらえるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしさ、その時に必要な支援を見極め、情報提供を行い支援に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな事でも、入居者と共に考えて、出来る事に視点をおき能力に応じて役割を持って頂いている。食事も共にしている。会話の時間も確保してる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしている為の不安や心配な気持ちを理解し、密な情報提供、交換をしている。また、気軽に足を運んで頂ける様に、行事参加呼びかけや面会等に規制を設けていないことを話している。ご家族がGHの畑作業を手伝って下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中には、出来ていない方もいらっしゃるが、以前お住まいの地区老人会や墓参りや里帰り、友人との買い物やランチ等々大切な人や場所との関係が途切れないようにしている。	入所前にアセスメントを行い、以前住んでいた地域の老人会への参加の支援や墓参り、美容院へ行く時は帰りに本人の希望のレストランへ立ち寄るなど、きめ細かく支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、関係を築け、気持ち良く生活が出来るように、孤立のないようにしている。また、入居者の小さな関係の変化にも、目を向け迅速な対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての方は出来ていないも、法人内の施設に移られた方には、適宜様子を伺い、家族から相談があれば応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握の為、目線を合わせ何うようにしている。また、日常的に入居者の言動、気持ちの変化に、表情を把握するようにしている。特に、体調の変化はいち早く気付けるようになりつつある。	職員は一人ひとりの思いや希望、意向の把握がケアの基本と考えており、日常生活に入居者の会話、行動、表情などの観察を細やかにし、個々のパターン等について職員間で話し合い、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんのこと、これまでの暮らし方をよく知る方から、情報を得るようにしている、また、知り得た情報は共有し、統一したケアが出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人からよく話を伺う等、個々にあった暮らしができるように現状把握に努めている。定期的なアセスメントと介護計画の見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直しの際は、ご本人やご家族と話し合いの場を持ち作成している。何か変化や問題があった場合は、その都度ケースカンファレンスを行っている。	本人・家族の意向をよく把握して、利用者が生きがいを有する介護計画になっている。2週間に1度は評価を行い、計画を確認しながらチームで話し合いが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時、その他日常的に疑問点や考えを職員間で共有し、話し合いを重ねる事で取り組んでいる。より、一層努力していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて変化するニーズに対して、柔軟な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場で、意見やアドバイスを頂き、安全で快適な暮らしの支援に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医への受診支援を行っている。また、診察日以外でも医師に相談に乗ってもらっており、安心感がある。	月1回は法人のクリニックから往診がある。利用者が他の医療機関を希望しても受診支援の体制はあり、受診結果は連絡票で確認されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がGH内勤務しており、必要時には相談に応じる事が出来ている、小さな体調の変化も、すぐに看護師に相談し、指示を仰いでいる。看護師も的確な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、連絡表や電話等で情報提供をしている。入院中は、こまめに病院へ出向き、病棟看護師や相談員と情報交換をし、状態把握をし、極力早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、折に触れグループホームでできることは十分に説明をし、理解、協力を得ている。	グループホームとしての基本的な方針を事前に説明して、本人・家族と話し合い、個別に看取りの指針を作成して同意を書面で得ている。	職員は重度化や終末期における方針、ホームでの看取りの指針の整備の必要性を感じていることから、話し合いの上、方針が共有できる取り組みを検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会を通し、知識と実践力を身につけるようにしている。万が一に備えた研修会の実施を今後とも継続していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し安全な建物構造になっている。また、年2回の火災訓練を行っている。火災以外の災害に対する訓練がなされていないのが今後の課題である。	年2回火災訓練は実施されている。災害時は法人全体で連携体制がとられ、備蓄も法人施設に保管されている。	地域との協力体制についても検討され、体制の構築を期待します。また、あらゆる災害を想定した研修や訓練の実施も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、入居者を敬う気持ちは、常に胸に刻んでいる。職員の言葉かけや対応次第で、入居者の気持ちや表情も変わることを気に留めているが、時に職員本位の声かけをしてしまう事もある。	職員は入居者を人生の先輩として敬う気持ちで、声かけや対応に心がけている。声を掛ける時は、否定的な言葉使いはしないことや、利用者の意志表示を確認してから対応するなど、細心の注意をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の些細な事でも、極力ご本人の力で決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況で、出来ない時もあるが一人ひとりのペースに合わせ強要したり、意に反しないようにしたり、希望に添った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしいおしゃれや身だしなみができるように、毎朝声かけ、支援を行っている。できない方に関しても、フォローを行っている。また、定期的に地区の美容室に出掛けたり、化粧品を買いに出掛けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節がわかる献立を考えている。献立には、好物や希望を取り入れていく。畑で採れたさつま芋や野菜が食卓に並ぶ事もある。食事作りも得意な事を活かして参加して頂いている。	献立は季節の旬の食材を使用し、利用者の希望を取り入れて立てられており、買出し、食事作り、後片づけに利用者も参加され、職員は同じテーブルで同じ食事を取りながら、利用者の介助をしている。ちまきや、七夕には白玉を利用者と共につくって楽しむ機会も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に助言してもらいながら、栄養バランスに考慮した食事となっている。水分量や食事量が少ない方に関しては、都度カンファレンスを行い、対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。また、口腔ケアの重要性について部署内研修をし知識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳を大切に、プライドを傷つけない声かけ、その方のタイミングを見計らって自立支援を心掛けている。極力、綿の下着を着用して頂ける様に、排泄パターンの把握し、記録に残しケアへ繋げている。	職員は綿の下着の着用を目標に、排泄パターンを把握して日々検討している。家族からの要望があれば、個々に応じたトイレ誘導が出来るよう、職員間で統一したケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、自然な形で排便を促せるように、毎朝、牛乳又は乳製品を摂って頂いたり、個々にあった体操を促したりしている。下剤使用ゼロを目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、時間等希望に添って、ご本人の意思を確認してから、入浴を勧めるようにしている。	入浴の時間帯は自由で、夜間に入浴したい利用者也支援されていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活時間やパターンに応じて、気持ちよい眠りにつけるように支援している。照明、寝具、周囲の音も希望に添い調節している。また、寝つきの悪い方は寝れるまで行動を共にしたり、リラックスできる環境を提供したり工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等よく理解し、看護師と共に服薬介助に努めている。わからないことは、そのままにせず直ぐ、看護師に確認している。必要時には、薬局より助言頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やニーズの把握に努め、それぞれの場面で役割や出番を発揮できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅が近い方は、ご家族の協力を得て散歩を兼ね自宅へ帰ったり希望に添い買い物をしたりして頂いている。行ける範囲内ではあるも、自由に外へ出て頂いている。行事の環境で、花回廊等へ外出している。外出支援をしたくても出来ない日もあり、改善する必要もある。	外出は近隣への散歩やカフェレストランでの昼食、毎月の食材の買出し、地域の催し物への参加、花見などの行事等々、利用者の希望を聞きながら支援している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるも、自己管理をしておられる方がいる。事業所で預かっている方に関して、自由に使うことが出来るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時には自由に使用して頂いている。また、季節の節目には年賀状や絵手紙をご家族には送っている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で快適な暮らしが出来るように環境面、空間作りに力を入れている。また、絵手紙や作品を張り出し披露している。トイレ等の共用空間はこまめにチェックし、衛生面に配慮している。	日当たりの良い廊下の一角に読書コーナーとして椅子が配置され、和室には掘り炬燵でゆっくり過ごせる共有の空間があり、季節を感じられる絵手紙や花の切り絵が壁に飾られていて、落ち着いた雰囲気できつろげる空間となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が、自由に交流できるように憩いの場や、テラスが整備され、危険のないように配慮している。頻繁に、気の合う入居者の居室へ訪問し、会話を楽しませている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の中で、少なからず窮屈な事がある。そのような時に、一人でゆっくりと落ち着いて過ごせるよう居室は、好きな物や馴染みの家具や仏壇、大切な人の写真等飾られている。	居室は備えつけの箆笥が置かれているが、本人が使い慣れた物(タンス・椅子・机)、人形や塗り絵が飾っており、愛用のミシンも置かれていて、利用者が落ち着けるよう配慮されていた。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角もあるが、最低限の工夫をしている。トイレや浴室の場所の明記、扉を開けるとベル・鈴が鳴るようにしている。明記する際は、入居者の馴染みの言葉を使用している。	